

九段中等教育学校の入学者選抜における考察

1 過去5年間の受検状況から浮かび上がる現状

- ① 区分A（区民枠）の受検者数は、増減がありつつも維持できている。
- ② 区分B（都民枠）の受検者数は、緩やかに減少している。

2 現状や社会状況から浮かび上がる課題

- ① 授業料無償化等による私立志向の強まりなど、今後も受検者数が減る要素があり、受検者確保に向けた取組の構築が課題として浮かび上がる。
- ② 受検者数の維持・増加に向け、他校との個性化（独自性のある教育方針やプログラムの実施など）と、それを対外的にアピールできる手段の構築が求められる。

3 教育委員会としての姿勢

昨年度、男女別定員枠を撤廃した次のフェーズとして、2の課題を解決すべく、受検者の確保に向けたさらなる改革の推進が望ましい。

4 九段中等教育学校の特徴・強み

- ① グローバル・STEAM・アントレプレナーシップの3つを柱に、探究的な学習に要点を置く教育プログラムを実施
- ② リーディングDXスクール生成AIパイロット校の指定、高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）の認定、令和6年度教育課程実践検証協力校事業「E-Assessmentに関するもの」のパイロット校の指定を受けている。
- ③ 「湯野正憲先生」という剣道の分野で高名な方が、九段中等教育学校の前身である都立九段高等学校で教員をされていた。
- ④ 生徒、保護者とも、英語教育が受検を決める大きな理由となっている。
- ⑤ 九段中等教育学校の魅力として、保護者の中でキャリア教育がトップになっている。
- ⑥ 「理科」にも力を入れており、観望会や夏期講習会には理科好きの児童が多数参加

次ページへ続く

5 事務局考察

受検者数の減少は、教育委員会として取り組むべき課題として受け止められる。

既に他自治体や私立中高一貫校が、特徴的な入学者選抜を展開する中、他の中高一貫校との個性化を図り、より児童・保護者から選ばれる学校となるためには、これまでの検討内容から九段中等教育学校の魅力・教育的特徴・環境を最大限生かした特別枠の導入が一策として考えられる。

特別枠を通して、九段中等教育学校の姿勢・ブランド力をメッセージとして対外的に発信し、そのメッセージに共感した児童・保護者が九段中等教育学校への入学を望むことで、受検者数の減少に歯止めがかかるものと期待できる。